

文学館だより

令和 2 年 8 月 1 日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文 責 日 高

おもひやるかのうす青き峡のおくにわれのうまれし朝のさびしさ

『路上』収録

明治 18 年 8 月 24 日の朝、牧水（本名 繁）は生まれた。
当時の家族は祖父母、父母、三人の姉の 7 人。牧水誕生のその日、祖父母は、山陰の叔父宅に行っており不在。父も早朝より往診のため、これまた不在。
妊娠以来とかく健康がすぐれなかった母マキであったが、その朝は珍しく気分がよく、縁側に座っていたという。
「何の用意もなしに急に産気づいて私は生まれたそうである。」
「ここでお前はことんと音をさせて生まれたのだよ、とその後、もうよほど成長してから度々姉どもは私をその縁側へ連れて来てはからかった。」と、牧水は『おもひでの記』に残している。

その年は、父立蔵が前厄でもあり、牧水（繁）が十分に育つか心配もあり（※実は牧水は 7 人目くらいに生まれ、他はみな生まれるとすぐに亡くなっていたらしい）、生後路傍に棄てられるという当時の風習に習い、牧水（繁）も裏門の外、八重桜の木の下に棄てられたようである。拾い役は 5 人の男の子をもつ那須ちよ。牧水は、小学校の頃まで、この那須ちよを「番所の阿母（おっかあ）」と呼んでいたという。

【大悟法利雄『若山牧水伝』参照】

牧水生誕の地、坪谷牧水顕彰のはじまりを探る その2

坪谷の地における牧水顕彰の先駆けを成した那須九市氏を、先月号にて紹介いたしました。「坪谷のことだったから最後まで読んだよ。」「よく調べたねえ。」など、地元の方から声を掛けていただきました。未だ調査途中ではありますが、先月お約束をいたしましたので、今回、父九市氏の意を継いだ息子一磋氏についてまとめてみます。



若山牧水歌碑落成（坪谷）

前列右から 3 人目、袴姿が一磋氏



除幕式後、生家前田んぼで催された祝賀会

一磋氏のご親族より写真を提供していただきました

生家裏山歌碑除幕式

■ 昭和 22 年 11 月 17 日

■ 碑文 ふるさとの尾鈴の山のかなしさよ
秋もかすみのたなびきてをり

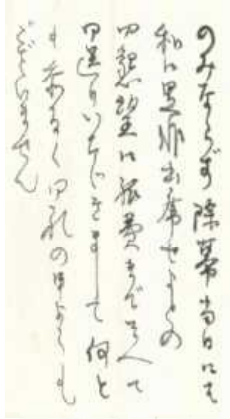
■ 文字 牧水直筆を拡大したもの
刻 村田 金吾（東郷町小野田）

■ 牧水郷土歌碑建設会			
建設会長	那須	一磋	（坪谷 本村）
副会長	矢野	団治	（坪谷 赤井笠）
書記会計	山本	源宗	（昌福寺先代住職）
建設委員	日高	郡司	（坪谷 赤井笠）
〃	越智	通輔	（溪水の弟）
〃	山田	萬	（坪谷 石原）
〃	三浦	次郎吉	（坪谷 市谷原）
顧問	甲斐	善平	（東郷町仲深）
〃	藤井	満義	（東郷町羽坂）
〃	小野	弘	（東郷町田野）
〃	越智	溪水	（坪谷 本村）

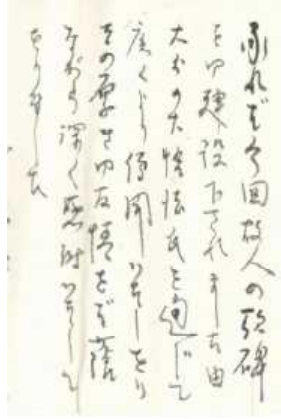
昌福寺内に事務所を置き、話し合いが重ねられた。

■ 同日、歌碑除幕と合わせて『牧水生誕之碑』除幕も執り行われている。

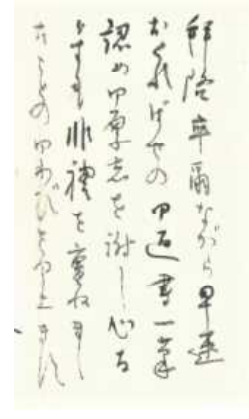
喜志子夫人から一磋氏へ送られた手紙があります。



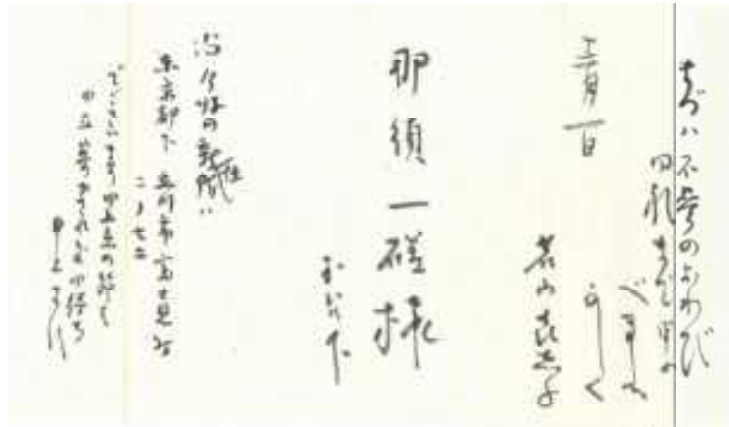
(中略)



(中略)



(中略)



若山牧水記念文学館
所蔵

拝啓 卒爾ながら早速おくれればせの御返書一草認め御厚志を謝し心ならずも非禮を重ねましたこと御わびを申上ます (中略)
承れば今回故人の歌碑を御建設下されました由大分の大悟法氏を通じて度くより傳聞いたしをりその厚き御友情をば蔭ながら深く感謝いたしてをりました (中略)
のみならず除幕当日には私に是非出席せよとの御懇望に旅費までそへて御送りいたさまは不参のおわび御礼まで申のべました かしく

十二月一日

若山 喜志子

那須一磋様 玉台下
尚 今後の新住所は
東京都下 立川市富士見町二ノ七二
でございます 御上京の節は御立寄下されなば御待ち申上ます

まさに、坪谷に歌碑建立を成し遂げた一磋氏をはじめ地元有志の方々へのお礼と、当日除幕式に出席できなかったことへの陳謝が書かれています。喜志子夫人は、当時実家に疎開中で、除幕式前後は東京への移転、荷造り、後かたづけと重なり、どうしても出席できなかったようです。

まだまだたどり着かず、私の聞き取りは今後も続きそうです。当時の情報をお持ちの方は、どうぞご一報ください。よろしくお願ひします。お客様のご依頼から始まった今回の調査でしたが、地元有志のみなさんの厚き思いを知ることができ、改めて牧水先生の人となり思いをはせ、より牧水先生が大好きになりました。

歌碑除幕式に出席できなかった喜志子夫人に代わって、『牧水生誕之碑』の除幕は、延岡高等女学生当時の興梠美生子さん(牧水姉シズの孫、延岡市在住)がされたとのこととです。

7月下旬、日向市において新型コロナウイルス感染者が確認されました。これを受けて、7月28日(火)より休館いたしております。8月17日(月)まで(予定)。感染された方へお見舞い申し上げますとともに、地域の感染が広がらないことを祈ります。みなさまのご理解ご協力をお願いいたします。